キャラクター名	プレイヤー名
不知火　雪月(しらぬい　ゆづき)	

シンドローム	サラマンダー ブラム＝ストーカー	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	支部長
オプショナル		年齢	48歳	性別	女性
覚醒	生誕	衝動	憎悪	初期侵食率	35 %
出自	名家の生まれ	経験	仲間の死	邂逅	家族

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0			4
感覚	2	0	0			2
精神	2	0	0			2
社会	1	0	0			1

HP	30
行動値	6
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：	2		芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
遺産継承者	P	N		
夫/不知火 創治	P 純愛	N 悔悟		
娘/不知火 愛莉花	P 慈愛	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	クリティカル値-Lv							
フレイムタン	1	2	メジャー	視界	-	対決	-	
効果：	白兵の攻撃を視界に変更。この攻撃を組み合わせた白兵の攻撃を-5(-Lv)する。							
インフェルノ	1	4	メジャー	-	単体	対決	100%	
効果：	ダメージを与えた相手を行動済みにする。1シーンに一回。							
終末の炎	3	2	マイナー	至近	自身	自動	80%	
効果：	「Lv×5」点までのHPを消費して、そのラウンドの間その分攻撃力を+する。							
白熱	3	3	マイナー	視界	自身	自動	-	
効果：	素手のデータを変更する。EA107参照。							
渇きの主	4	4	メジャー	至近	単体	対決	-	
効果：	組み合わせた白兵攻撃は装甲無視になる。HPをLv×4回復。							
血の宴	3	3	メジャー	-	範囲	対決	-	
効果：	攻撃の射程を範囲に変更。Lv回まで使用可能。							
先陣の火	2	2	セット	至近	自身	自動	-	
効果：	ラウンドの間行動値+Lv×5							
凍結保存	1	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果：	凍結・討伐命令が本部から出されたときに自ら処理、確保するために使用。							
不燃体	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	熱さには元から強い。サラマンダーの炎も多少…軽減できるはず。							
効果：								
効果：								
効果：								

とある支部の支部長。冷静沈着で感情をあまり表に出さない。時には非情な選択をとることも。
ジャームの討伐や捕獲の作戦には自ら赴いて最後に凍結処理をする。極力討伐はしない主義ではある。

(ここから下はバックグラウンドなので見なくても大丈夫です。)
炎の力を、神を代々信仰する家。その家の長女として生まれた。生まれながらに力を持っていた。感情が豊かでころころと笑う可愛らしい女の子。
家がUGNに関係していたのもあって力をコントロールするための訓練はしていた。
幼馴染で家同士に決められた許嫁がいた。彼も生まれながらのオーヴァードである。決められてはいたものの仲は良く、愛し合っていた。
UGNでエージェント同士であり、夫は次期支部長候補であった。
…が、ある日街中でのミッションで夫が命を落としてしまう。街が崩壊を始めていたその時、家に祀られていた「イフリートの招来」を使用し、イフリートと契約をする。自身の「哀」の感情を代償として。そこから新たに手に入れた力を駆使し、怒りに任せてすべてを脅威から街を守り切った。
次期支部長候補であった夫が殉職となったことで彼女が任務の成果を認められ支部長へと任命された。
当時は哀しみに暮れていたが、支部長業に追われ「イフリートの腕を」行使していくうちに感情が次第に乏しくなっていった。
大抵のことは遂行する。情には流されないので非情な選択をとることもある。
支部長になってしばらくした後に彼女にとある話が入ってくる。それは
「育児放棄された乳児のオーヴァードが居るのだが、専用の乳児院へ入れるまでの手続きの間保護してもらえないか。」
というもの。彼女は二つ返事で引き受ける。(彼女はもともと子どもが授かれない体であり、夫との子どもをあきらめていた過去がある。)
彼女は、そのエグザイルの力によって両足を欠損させ、顔が醜くなった赤子を見た時、彼女にある思いが生まれる。
「この子は、最初に絆(ロイス)を形成されるべき両親に捨てられ、この見た目できっと彼女の絆(ロイス)となる人物は現れないかもしれない。そうしたら、この子の帰るべき場所がなくなって、ジャームへと簡単に堕ちてしまう。そうなってしまうなら、私がこの子の絆(ロイス)になろう。」
そう思いを決めた彼女は、上層部に掛け合い、赤子を自分の養子へ受け入れるこを決意した。特別養子縁組として正式に親子となった。
引き取った娘に「愛莉花」と名付けて育てて行った。サラマンダーの扱い方は彼女が直接娘へ伝授した。
母と娘の仲は良好。支部長として、母として、いつも彼女を見守っている。